

大友厚生園

昭和34年12月24日 月 日

60人が病状訴える

岸和田 労基署 「石棉肺」一斉検診

岸和田労基署は泉南郡の石綿工場 するため、去月末、同労基署のいっ に働く従業員を「石棉肺」から守るため、せい検診をした。診断の結果は

二、三月たたいとほつきりし ないが、受診者五百五十一人（二 十八工場）のうち、石棉肺で入院 中のもが八人、軽い自覚症状 （悪苦しい、せきが出る）を訴 えるものが六十余人もあつた。石

綿肺は石棉の粉末を吸い込むため 肺がおかされ肺結核のような症状 を起こすもの。同労基署の調べで は、一昨年から十一月までに 三人が死す。うち一人は石棉肺か ら肺がんをひき起こしたらしいと いう。この病気が結核よりもなお り難いので、従業員のなかには「石 綿肺」と診断されるのをおそれ て、受診をさしおくものもあり、同 署では一斉検診の際、各工場ごと にバスを回して診療所に送り込ん だ。 石綿工業は同郡泉南町や東島取 村が中心で、三十余工場に約七百 人が働き、全国生産量の六割を あびているが、中小企業者が多 く、施設も劣るなど、健康にはた びにわたる。このため同署は はたし、健康な設備の 改善を促すよう、自覚症 患 者の早期診断を呼びかかるといふ。